

地域再生計画の進捗状況に対する評価について（事後評価）

様式 - 1

| | | | | | |
|-------|---------------|--------|---------------|---------|---|
| 都道府県名 | 茨城県 | 事業実施主体 | 茨城県、常総市及び坂東市 | 地域再生計画名 | 圏央道IC整備のインパクトを活かした地域活力向上計画 |
| 計画期間 | 平成22年度～平成26年度 | 事業期間 | 平成22年度～平成26年度 | 評価責任者 | 茨城県農村環境課長 関 武志、常総市都市建設部長 小林茂、坂東市都市建設部長 染谷恒雄 |

| ①地域再生計画に記載した数値目標の達成状況 | 指標 | | 基準値 | | 直近値 | | 目標値 | | 見込み | 達成状況に関する評価 |
|------------------------------|---|--|-------------------------------------|------------|--|------------|------------|------------|---|--|
| | 指標 1 | 指標 2 | 基準年度 | 年度 | 基準年度 | 年度 | 基準年度 | 年度 | 評価 | |
| ①地域再生計画に記載した数値目標の達成状況 | 指標 1 | 移動時間の短縮（主要な工業団地、観光施設から圏央道10までの移動時間を短縮） | 坂東IC 15分 常総IC 26分 | H21 H21 | 15分 26分 | H25 H25 | 10分 23分 | H26 H26 | △ △ | 坂東IC～つくばハイテクパーク間については、別事業で整備中の經由市道の完成が遅れており、目標達成年度が遅れる見込みである。常総IC～内守谷工業団地については、計画期間での整備が完了しなかったため、次期計画期間内で目標を達成できる見込みである。 |
| | 指標 2 | 入込観光客数の増加（坂東市及び常総市への入込観光客数の増） | 60万人 | H20 | 98万人 | H25 | 63万人 | H26 | ○ | 支援措置により整備が完了した市道によるネットワーク強化や「5-3-2 支援措置によらない独自の取組み」の結果、現時点において大幅に目標を上回る実績を達成している。圏央道10の整備は本計画期間後となるが、圏央道10整備後においては、目標値を大幅に超える見込みである。 |
| | 指標 3 | ロケ件数の増加（常総市及び坂東市でのロケ件数の増） | 85件 | H20 | 106件 | H25 | 95件 | H26 | ○ | 支援措置による道路の整備により、現時点においても目標を達成しているが、「5-3-2 支援措置によらない独自の取組み」の結果、さらに上積みすることが見込まれる。 |
| ②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の発現状況 | 指標 1 | 未利用地の有効活用 | | | | | | | | 坂東市が整備した路線について、道路整備前は耕作放棄地や荒地となっていた箇所道路が整備されたことで、耕作の再開や宅地化など、有効な土地利用が図られるようになった。 |
| | 指標 2 | | | | | | | | | |
| ③事業の進捗状況 | 事業名 | | 整備量（その他の事業では取組内容） | | 事業進捗に対する評価 | | | | 目標の達成に対する評価及び今後の対応 | |
| 特別措置を適用して行う事業 | 市道整備事業（整備延長） | | 6.0km | 3.6km | 坂東市道については、整備が計画通り完了する見込みである。常総市道については、未完了であり、次期計画で整備が完了する予定である。 | | | | 整備が完了する前においても、目標数値の達成に向けて様々な取組を行っているが、数値の推移をみると、今回の整備後、大幅な効果が確実に見込めると期待できる。一方、圏央道ICの整備が次期計画期間内に予定されていることから、この効果（インパクト）を最大限発揮するよう、未完了となった路線とさらに交流人口の増加を図るための路線の整備および施策を進めていく方針である。 | |
| | 広域農道整備事業（整備延長） | | 2.3km | 0.8km | 他事業との調整に時間を要したため、一部整備が未完了であるが、次期計画期間内に完了する予定である。 | | | | 0.8kmを整備したことにより、常総工区について全線供用開始することができ、農作業の効率化や輸送コストの削減に寄与することができた。現在は、他事業との調整が完了し、次期計画において未完了部分の整備を進めている。これにより、地域全体の農業の活性化やH29.2に開通した圏央道ICまでのアクセス向上が期待でき、農業をテーマとした交流施策についても進めていく方針である。 | |
| | | | | | | | | | | |
| その他の事業 | 生活道路整備事業 | | 緊急車両等の運行困難解消及び歩道幅員の確保による交通弱者の移動円滑化等 | | 平成22年度からの4年度で、坂東市19km、常総市10kmの整備を実施した。 | | | | 危険度および優先度の高い道路について、計画的に整備を進めることができた。しかしながら、超高齢化社会が今後進展するなか、市街地、集落地域においても未改良の道路が多く残されているため、引き続き整備を進める。 | |
| | 観光・交流推進事業 | | 地域資源を活かした観光の振興及び交流人口の拡大 | | 得門まつりや千姫まつりなど地域の歴史に根ざしたイベントのほか、全国ねぎサミットの開催など新たな事業に積極的に取り組んだ。 | | | | 2市に根付いている歴史まつりや花火大会等への集客増に加え、食や農業をテーマにしたイベント（ねぎサミット、B級グルメ、朝市等）の取組により、大幅な交流人口の増大を達成することができた。今後は、圏央道からの誘客に向け、遠隔地の住民への訴求効果を目指したPR等に加え、圏央道周辺での観光・交流施設の設置の検討など、新たな交流施策を実施していく。 | |
| | フィルムコミッション事業 | | 受入体制、連絡・連携体制の強化 | | 坂東市における担当職員の配置のほか、常総市においては、専用ホームページの開設など、積極的に強化を図った。 | | | | 坂東市において、シティプロモーション担当職員を配置し、全国に向けて市のプロモーション活動を展開している。常総市においては、フィルムコミッション専用ホームページを開設し、ロケ、宿泊、ロケ弁当等の受付のワンストップ化を実施した。放送予定やロケ地紹介と合わせて総合的なサイト運営を行うなど先進的な自治体として認知されている。結果、ロケのまちとして数多くの撮影に利用されており、引き続き、東京50km圏の強みを生かしてPRを強化していく。 | |
| | 産業集積形成推進事業 | | 産業用供用施設の整備、人材の育成、確保、技術開発等 | | 坂東市において工業団地造成事業に着手した。常総市において坂手工業団地の拡張および圏央道常総IC周辺への産業集積の拠点整備に着手した。 | | | | 坂東市において、圏央道の整備に向けた産業集積拠点として、工業団地造成事業に着手し、新たな企業立地の見通しが立っている。今後は、引き続き、事業を進めるとともに、他の工業団地への工場立地も並行して進めていく方針である。常総市においては、坂手工業団地の拡張事業を行い、圏央道IC周辺に農業をテーマに産業の誘致を図る計画を推進している。 | |
| 計画外で独自に実施した事業 | | | | | | | | | | |
| ④計画全体の総合評価 | 本地域再生計画では、道整備交付金を活用した市道整備と農道整備を一体的に実施し、市道整備では路線間の調整や年度間調整を行うなど整備段階にあわせた予算措置が実施でき、道路整備についての一定の進捗は見られたが、本計画策定時において、計画期間内を予定していた圏央道10開設が平成27年度以降になったことや広域農道の工事が遅延したことから、効果の発現を総合的に評価する状況には至っていない。しかしながら、供用開始となった路線や、計画に位置付けた独自の取組により、交流人口の増（観光入込客の増、ロケ数の増）などの効果を概ね発現しつつあると捉えており、計画記載の路線の完了及び圏央道10開設後は、さらなる交流人口の増が見込まれるため、早期整備に対する期待は大きい。 | | | | | | | | | |
| ⑤評価結果の次期計画への反映状況 | 次期地域再生計画においては、さらなる地域活性化を図るために、今計画で整備した市道、農道に加え、圏央道ICと工業地域、観光資源を連結するための市道整備を実施していく必要がある。また、他地域との交流・連携の軸となる圏央道や広域的交通網を生かして、首都近郊の農業地域・豊かな自然環境としての存在感を発信しつつ、産業集積、交流人口の増大、住環境の提供（定住人口の誘導・Uターン）を柱とした地域活性化により、持続的に発展できる地域創生を図ってきたい。 | | | | | | | | | |